

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

平成29年度 森林・林業交流研究発表会の開催

11月21日(火)～22日(水)の両日、近畿中国森林管理局大会議室において、公益的機能の高度発揮のための森林施業、民有林経営への支援となる林業技術や手法の確立、森林環境教育の推進、民有林・国有林が連携した森林・林業の成長産業化に向けた取組などについて、その成果の普及・定着を図るとともに、発表者相互の研鑽、交流、連携を深めることを目的として「平成29年度 森林・林業交流研究発表会」を開催しました。

発表は、森林管理署等の職員のほか、自治体や森林組合の職員、高等学校や林業大学の学生等からも研究成果、取組成果を発表いただき、延べ200名の参加がありました。

主な発表課題は、シカ被害対策や低コスト林業への取組、希少野生動植物種の保護、繁殖鳥モニタリング、早生樹(コリノキの成長と利用)、民国連携など、様々な取組について24課題の発表が行われ、審査の結果、兵庫森林管理署(自然休養林における利便性の向上、情報発信の強化に向けて～QRコードを活用した取組～)、和歌山森林管理署(シカによる緑化被害の対策について(第二報))、鳥取県立智頭農林高等学校(鳥とともに森林環境を考える～繁殖鳥モニタリング調査を通して～)が局長賞を受賞し、全体では審査員長賞を含め10課題が各賞を受賞しました。

課題発表に続き、特別発表として(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所、(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場、和歌山県林業試験場、山口県農林総合技術センターから最新の研究成果について発表いただきました。今回発表いただいた内容については、3月末迄に森林・林業交流研究発表集録を発行し、管内の行政機関、研究機関、大学等教育機関へも広く配付し、森林・林業の発展の一助として取り組んでまいります。



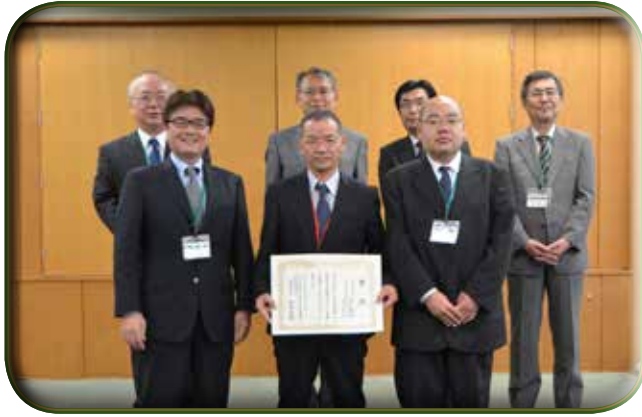
近畿中国森林管理局長賞



- ・鳥とともに森林環境を考える
—繁殖鳥モニタリング調査を通して—
鳥取県立智頭農林高等学校
亀井丈人・寺坂智也・小川和磨



- ・自然休養林における利便性の向上、情報発信の強化に向けて
～QRコードを活用した取組～
兵庫森林管理署 中村祐輔(写真左)
- ・シカによる緑化被害の対策について(第二報)
和歌山森林管理署 小村政生・小林正典・岡井邦仁
(写真中央～右)



← (国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所長賞

- ・ユリノキという木は短伐期で木材として利用できるのか
—岡山県内2地点での調査結果—
(岡山県農林水産総合センター森林研究所 西山嘉寛)
(近畿中国森林管理局森林技術・支援センター 阿部良文)



↑ (国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所

- 林木育種センター関西育種場長賞
- ・保護林における希少野生動植物種の保護管理について
—食草の増殖等—
(奈良森林管理事務所 山村実香)
(昆虫生態写真家 伊藤ふくお)



↑ (一社) 日本森林技術協会理事長賞

- ・主伐時から考える低コスト再造林への取組
(広島北部森林管理署 早田慎司)



↑ (一財) 日本森林林業振興会会長賞

- ・福島の子どもたちに笑顔を！～木の温もり 人の温もり～
(京都府立宮津高等学校 岡田晶帆、谷口加奈、小谷保雄)



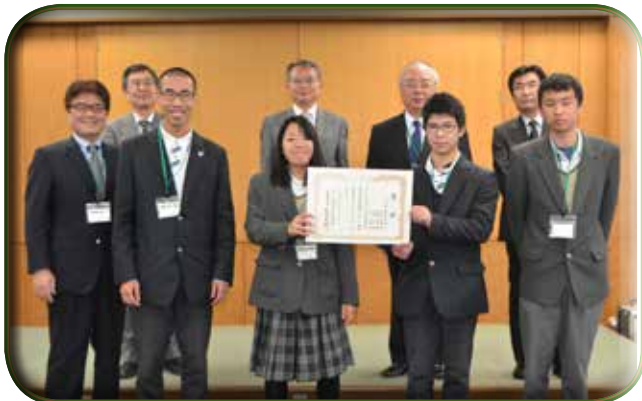
↑ 森林・林業交流研究発表会審査委員長賞

- ・「地元の木を使おう」—図書館用木製品の提案—
(京都府立北桑田高等学校 湯浅きすな・林 智貴・安井丈史)



↑ 森林・林業交流研究発表会審査委員長賞

- ・森林セラピー山口における民国連携の取組について
～多様な主体との連携・協働を目指して～
(山口森林管理事務所 江口頼雄)
(森の案内人の会 松本和也・徳光弥生)



↑ 森林・林業交流研究発表会審査委員長賞

- ・トラップ法を用いたカシノナガキクイムシの防除に関する研究3
(大阪府立園芸高等学校 川井千鶴・前田保臣・宮田 剛・林 朋輝)

ニュース

第8回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催

【奈良森林管理事務所】 10月24日、興福寺会館において第8回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催しました。このイベントは、歴史的建造物の修理に必要な木を育てようと活動している春日奥山古事の森育成協議会や古事の森のことを皆様に広く知っていただくことを目的としています。

当日は一般公募で申し込みをいただいた121名に参加いただきました。

協議会の会長である春日大社伊勢権宮司から、協議会の紹介、文化財の保存の苦労を交え開会の挨拶がありました。

続いて、協議会委員であり、イベント会場をご提供頂いた興福寺の^{たかわ}多川執事長から「最近、木材の確保が困難で鉄筋コンクリートによる寺院等の修復が多い中で、興福寺中金堂の復元を木材で行うことは古都奈良の寺院としての使命です。この機会に木の文化の大切さを知って頂きたいです。」という旨の歓迎の挨拶がありました。

講演会では、春日大社管理部主事の館俊秀氏から「木の文化を支える匠の技」と題して、また株式会社瀧川寺社建築代表取締役副社長の國樹彰氏からは「瀧川寺社建築による中金堂復元現場の経過報告」と題してご講演をいただき、両氏ともに、国産の木材（高齢級の大径・長尺材）の確保が困難で外材を利用せざるを得ない状況にあるという話をされていました。

参加者からは、「講演では専門的な話で解らない部分



春日大社伊勢権宮司



興福寺多川執事長

もありませんでしたが、木の文化の大切さが伝わりました。講演後の中金堂の復元現場を見学できて良かったです。来年も参加したい。」等の感想を頂き、盛況の内に終了しました。



鳥取県知事を表敬訪問

12月5日、高野局長は鳥取県庁を訪れ平井知事を表敬訪問しました。

局長から林業の成長産業化を実現するため、森林施業の低コスト化や鳥獣被害防止対策等について民有林と一体になって取り組んでいること、また、平成30年に大山で開催される「山の日」記念全国大会・「大山開山1300年祭」が盛り上がるよう、当局としてもいろいろ企画していることなどを伝えました。



左から平井知事 高野局長 竹井鳥取署長

お知らせ

『森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会』の開催

「教育機関と活動団体が連携・協働して取り組む森林環境教育」の実践事例を募集し、8事例12団体（小学校、幼児教育機関、教育委員会、地域団体、森林インストラクターなど）が、活動報告を行います。

＊開催日時

平成30年1月27日（土）10:00～18:20

＊内容

8事例12団体から事例報告、講演、パネルディスカッション

＊参加希望の方は、下記ホームページよりお申し込みください。

箕面森林ふれあい推進センターホームページ
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/index をご確認ください。

森林のギャラリー（局庁舎1階）

1/7～1/11 竹扇会 新春選抜書展 【竹扇会】

1/15～1/31 スキ一場紹介 【企画展示（保全課）】

1/15～2/28 森林環境教育（森林ESD）の活動紹介
 【企画展示（箕面森林ふれあい推進センター）】

シリーズ 『国有林 最前線!』

三重森林管理署 ～海岸林から県境までを管理～

三重森林管理署は北は岐阜県境に接する悟入谷国有林から、南は和歌山県境の七里御浜国有林までの間に、約21,600haの国有林、約2,000haの官行造林地を管理しています。

三重県の南北にわたり国有林があることから、それぞれの地域に5森林事務所と治山事業所が配置されています。

県北の悟入谷国有林、古野裏山国有林は林業経営に適した団地となっており、民有林、国有林が一体となって水源かん養等の公益的機能に配慮した林業活動を行っています。

熊野灘に面した七里御浜国有林は延長25km、面積約92haの細長い海岸林ですが、地域を潮風から守る防風保安林、地域の憩いの場として活用されています。

近畿の屋根と言われる大台ヶ原の一部をなし、宮川流域の水源となっている約16,000haの大杉谷国有林が三重署の管理面積の大半を占めております。シイ、カシが分布する暖帯林からブナ、ミズナラを経てウラジロモミ、トウヒなどが分布する亜寒帯へ移行する多種多様な森林となっており、あわせて多くの動植物も生息しています。近年は、ニホンジカが増え食害が発生していることからその対策にも取り組んでいます。

大台ヶ原ビジターセンターから1,695mの日出ヶ岳頂上には多くのハイカー、登山者が訪れます。また、日本3大峡谷のひとつである大杉谷峡谷から日出ヶ岳に通じる登山コースを本格的に楽しむ人も多く訪れております。

体力等に自信のある方は一度は挑戦してみてください。



晩秋の大台ヶ原 (大杉谷国有林)



防風保安林 (七里御浜国有林)

鳥取森林管理署 大山治山事業所 小林義幸

大山治山事業所は、中国地方最高峰で伯耆富士の名で知られる大山(標高1,729m)の中腹にある大山寺集落に位置し、主に大山周辺の国有林において治山事業を行っています。

大山は、過去の火山活動により誕生したとされ、基岩は風化しやすい安山岩で形成され、高山のため気象変化が大きく、繰り返される凍結融解作用などにより風化が進んでいます。

このようなことから、大山の頂上の稜線を境に北壁、南壁、東壁といわれる大崩壊地ができています。これらの崩壊地を含む荒廃地面積は、236haあり、そこから流出する土砂は年間7万m³に及び全国でも有数の荒廃度を示し、堆積している不安定土砂量は約80万m³と推定されています。

また、事業対象地のほとんどが国立公園に指定されていることから、道路から見るところでは、以前から自然景観に配慮し、自然石を利用したえん堤や護岸工などを設置してきました。

大山の治山事業は大正6年(1917年)から始まり今年度で100周年を迎えました。これを記念し、100年間実施してきた治山事業の大切さなどについて、地域内外の皆さまに知っていただく記念行事を局・署が主催し、鳥取県・大山町をはじめとする地元市町や大山町教育委員会、NHKなどテレビ局や地元新聞社などの後援を頂き開催しました。行事では、「身近でこのようなことをやっていることを初めて知った」等の声がありました。

100年間という長い年月をかけて治山事業を行ったことにより、復旧は進んできましたが、まだまだ土砂移動の多いこともあり、今後も引き続き事業に取り組んでいきたいと思っております。



自然景観に配慮したえん堤群と南壁



100周年記念 オープニングセレモニー